

競技上の注意と確認事項

1 競技規則

本大会は、令和4年度（公財）日本ハンドボール協会「競技規則」によって行う。

2 競技会場

(1) 競技会場・コートの広さは、以下のとおりとする。

○沖縄県立武道館アリーナ棟 (39m×20m) 2面

本会場は「松やに」の使用を禁止し、「両面テープ」のみ使用を認める。

(2) 別紙「新型コロナウイルス感染症拡大防止ガイドライン」を遵守して使用する。

3 種別及び参加人数

参加人数は、役員6名以内・選手18名以内の合計「24名」以内とする。

交代地域への入場は、役員4名以内・選手16名以内の合計「20名」以内とする。

4 競技方法

男女とも、4チームのトーナメント方式と3チームのリーグ方式とする。

トーナメント、リーグを勝ち上がってきたチームで代表決定戦を行い、1チームが日本選手権大会に出場する。

5 参加資格

参加資格は、実施要項「8 参加資格」(1)(2)のとおりとする。

臨時トレーナーについては、別に定める。※競技上の注意と確認事項の「16」参照

6 競技日程・時間

(1) 競技日程は、プログラムのとおりとする。

(2) 競技時間は、男女ともに「前半30分－休憩15分－後半30分」

なお、同点の場合は、延長戦を正規で行う。第1延長 ～ 第2延長 ～ 7mTC（5名）

(3) 競技時間は、加算式のデジタイマーを使用し、コート対面に表示する。

(4) 競技終了の合図は、デジタイマーのブザー、タイムアウトの合図はTDの笛で行う。

(5) 退場者の表示について

①退場者の番号と入場時間は、オフィシャル席の端に入場時間表示用紙で表示する。

②入場の判断は、チームの責任である。記録席から合図することはなく、問いかけても回答しない。

7 大会使用球

（公財）日本ハンドボール協会検定球を使用する。

○男子：両 日モルテン（ヌエバ X5000 H3X5001—BW）

○女子：両 日モルテン（ヌエバ X5000 H2X5001—BW）

8 トス・ユニホーム

(1) トスは、ユニホーム確認の際に記録席前で行う。立ち合いは、チーム役員・選手のいずれでもよい。

その際、チーム役員の服装（色）及び臨時トレーナーの有無についても確認する。※11(5)、16(1)

- (2) ユニホームの確認は、すべて試合開始30分前(前試合の終了後)に記録席前で行う。感染症予防対策として、前試合の前半終了直後に行わない。確認の際には、登録したすべての種類のユニホームを持参する。希望調整がつかない場合は、組合せ表によるチーム番号の大きいチームが変更する。
- (3) ユニホームについては、次の通りとする。条件に満たない場合は、当て布等で覆わなければならない。当て布の色は、ユニホームと同色でなくてもよいが、チーム全員が同色とし、同じデザインにする。
- ① 番号の大きさ(高さ)は、胸10cm以上・背20cm以上とする。
 - ② 基調の色として、半分以上が同色でなければならない。例えば、左右上下対称色を用いたものは認めない。
 - ③ メーカーのロゴは、20cm²以内の目立たないものとする。サポーター等も同様とする。
 - ④ 背中に氏名等の文字表記をする場合は、大きさ(高さ)10cm以内とする。
 - ⑤ 試合中にユニホームが破損したり、血液が付着したりして競技を続行できない時は、別のユニホームに着替えなければならない。その場合は、異なる番号でも問題ない。交代地域にいる別のプレーヤーのユニホームと交換することも許される。
 - ⑥ チームは、ユニホームとして「シャツ・パンツ・ソックス」の色をそれぞれ統一すること。ソックスは、色が揃っていればよく、メーカーのロゴなどは問わない。
- (4) ゴールキーパー
- ① チームで同色とする。
 - ② コートプレーヤーがゴールキーパーに代わる場合は、登録された同じ番号でなければならない。併せて、登録されたゴールキーパーと同色のユニホームを着用することは許される。
- (5) 身につけられるものについて
- ① 短パンツの下に着用するサイクリングパンツやウォームパンツ(アンダーウェア)は、短パンツの基調色か同色とし、チームで統一していれば着用できる。
 - ② ユニホームの外にアンダーウェアが出る場合があっても、立っている状態で見えなければ正さなくてよい。
 - ③ 長袖のアンダーシャツ・アーム(ロング)スリーブ等は、ユニホームに使用されている基調色と同色であれば着用できる。
 - ④ ふくらはぎのコンプレッション(加圧)サポーターは、靴下と同色であれば着用できる。
 - ⑤ 複数の部位を覆うサポーター等やメーカーのロゴが20cm²以上ものは、着用を認められない。
 - ⑥ 金具入り等、敵味方を問わず他の選手に危害を与えるものについては、その着用を認められない。
 - ⑦ 眼鏡及びスポーツゴーグル等を使用する際には、固定バンドの装着を必要とする。ただし、金属製のフレーム等については使用できない。
 - ⑧ 詳細は、JHAホームページ「JHA保護を目的とした装具」を参照すること。

9 登録証・公認資格証とチーム役員・選手の確認

- (1) 事前に所定の手続きを完了した登録証のあるチーム役員・選手のみが競技に参加・出場することができる。
- (2) 交代地域には、チーム責任者1名を含むチーム役員4名以内、選手16名以内の合計20名以内が入ることができる。**トス時に、交代地域に入る役員・選手をエントリー申告する。**
- (3) **チーム役員・選手の変更については、9月19日(月)17時まで**に、変更申請が完了したことで決定する。
- (4) 登録証について
- ① トスの際には、TDに登録証を提出する。不備(写真添付なし等)があった場合は、試合に出場できない。
 - ② TDが、試合前に交代地域にてチーム役員・選手及び登録証を確認する。試合中は、TDが登録証を管理し、試合終了後にTDから両チーム代表者に返却される。
 - ③ 失格したチーム役員・選手、または、裁定委員会に提訴されるチーム役員・選手には、その場で返却しない。
- (5) チーム役員は、試合中に大会主催者が準備した「A・B・C・Dカード」を着用し、試合終了後に返却する。チーム責任者は、「Aカード」を着用する。

10 公式記録用紙

- (1) 記録は、(公財)日本ハンドボール協会「公式記録用紙」(ランニングスコアあり)を使用する。
- (2) チーム責任者は、試合開始前に公式記録用紙に記載されている「役員氏名・カード、選手氏名・背番号」を責任を持って確認し、サインをする。
- (2) 公式記録用紙に記入されている者だけが、交代地域に入ることができる。

11 交代地域 ☆交代地域:「3.5mラインを始点とし、センターラインから12mの範囲まで」

- (1) 各チームのボール等の用具類は、競技開始前にケース等に収納して交代地域内にて管理する。競技開始後は、ボールに触れることを含めてボールの使用を禁止する。
- (2) 飲料水は、飲み口の細い「個人の容器」を使用し、コップの使用を禁止する。**感染予防対策として、大型ペットボトルの回し飲みを禁止する。**

- (3) 交代地域では、通信機器の使用を認める。
詳細は、JHAホームページ「交代地域に持ち込み可能な技術的機器に関するガイドライン」を参照する。
- (4) 試合中、選手が交代地域内で簡単な準備運動をすることは認める。
ただし、ボールの使用やコート内への指示・応援、立位のままで観戦することは不可とする。
- (5) チーム役員は、相手チームのコートプレイヤーと異色の服装でなければならない。
トスの際、ユニホームの色が確定した後に、役員の服装の色を確認する。
- (6) チーム役員は、原則として座っていなければならない。
ただし、チーム役員1名のみが、戦術的な指示や治療を目的として、交代地域の範囲内で動くことは許される。
- (7) 観客席等から選手への指示や審判のジャッジに対する暴言等は厳禁とする。
- (8) チーム役員は、試合時もマスクを着用する。試合に出場しない待機選手も可能な限りマスクを着用する。

12 チームタイムアウト

- (1) チームタイムアウトの請求は、全試合1試合で3回請求することができ、前半後半にそれぞれ最高で2回まで請求することができる。また、後半の残り5分間は1回しか請求できず、延長戦は請求できない。
- (2) チームタイムアウト請求カード（グリーンカード）は、チーム役員だけが提出することができる。
請求する場合は、記録席まで持参する。提出するために、コーチングエリア（3.5m）を越えたらグリーンカードを提出しなければならない、躊躇することは許されない。
ただし、請求および受け取りと判定のタイミングにより、チームタイムアウトにならない時があるので、その場合は、グリーンカードをチームに戻す。
- (3) グリーンカードは、常にベンチに置いておかなければならない。請求する時のみ、持つことが許される。
- (4) グリーンカードは、TDが直接受け取ってよい。

13 休憩時間（ハーフタイム）

- (1) 前半が終了し、後半に向けてコートを移動する際には、前半使用した椅子（ベンチ）を消毒し離席する。
後半の終了後にも同様に消毒を行う。なお、消毒液・ペーパータオル（雑巾不可）などは各チームで準備し、感染予防対策を施した「新しい大会の運営」に全チームが相互協力する。
- (2) **休憩時間のコート使用は、試合を行っている控え選手が練習に使用する。**使用時間は「13分」とし、残りの時間は、後半に向けたコート整備の時間とする。
感染症予防対策の観点から、次試合の選手が練習で使用することを禁止する。
※タイマーは「13分の減算表示」とし、13分のブザー合図で速やかに交代地域に戻り後半に備える。

14 チーム役員・選手の入館時間及びフロアへの入場のタイミング

- (1) **第1試合の入館は、施設開館の関係上、「8時30分」とする。2試合目以降のチームの入館は「試合開始1時間30分前」、退館は「試合終了30分後まで」とする。**
- (2) 次試合のチーム役員・選手は、前試合が終了し、両チームの役員・選手がコートアウトし、ベンチの消毒作業が終了後にフロア（交代地域）に入場する。

15 テクニカルオフィシャル（マッチオフィシャル：MO、テクニカルデレゲート：TD）、裁定委員会

- (1) 本大会は、各試合にTD2名を配置する。（全試合、そのうち1名はMOを兼ねる）
TDは、競技委員長のもとで競技役員として各試合に立ち会い、各試合を円滑に運営するため審判員・全競技役員・補助員と協力して試合を管理する責任者である。
- (2) 本大会に裁定委員会を設置する。委員は、競技委員長・競技副委員長・審判長とする。
なお、必要に応じて関係者を同席させることがある。裁定しなければならない事案が生じた場合は、当日中に裁定して関係者に通知する。

16 臨時トレーナー

- (1) 臨時トレーナーとは、役員登録をしていない公的資格を有するトレーナーを指す。
トスの際には、必ず（MO）TDに申告する。席は、交代地域から離れた場所に設置する。
- (2) 臨時トレーナーは、交代地域やコート内に立ち入ることや応援・指示はできず、自席での対応のみとする。
選手は、一時的に交代地域から許可なく離れ、臨時トレーナー席で治療等を受けることができる。

17 負傷者カード（※全国大会に準じて適用）

- (1) コート上で治療を受けたプレーヤーは、速やかにコートから出なければならない。
その後、そのプレーヤーは自チームが3回の攻撃を終了するまでコートに戻ることはできない。
これを表示するために、負傷者カードを記録席に表示する。3回の攻撃が終了し、コートへ戻る事が可能になったら、このカードを取り除く。
- (2) 延長戦を含めて前半・後半が終了したら、3回の攻撃回数が終了していなくても、次の開始時点からコートに入場できる。

18 試合の開始と終了後の行動

- (1) 開始時は、選手全員が交代地域から横1列で入場して、あいさつをする。
試合終了時は、コート中央に横1列で並んであいさつを行いベンチへ戻る。試合後の対戦チームへのあいさつは役員同士で行う。
- (2) 試合終了後、スムーズに退館するために、試合前に荷物を1階の指定された場所にまとめて置いておく。チーム関係者は、一斉入館・一斉退館を原則とし、観戦や試合撮影を目的として、個別に入館したり、観客席に残留したりしない。
ただし、男子「Yリーグ」と女子「βリーグ」で初日に2試合するチームは、次試合まで休養を兼ねて体育館内での待機を認める。本部が指定した場所で待機し、他チームの関係者と接触することがないように留意する。

19 表彰

競技2日目の代表決定戦が終了後に賞状授与を行う。

20 感染症対策

- (1) 別紙「新型コロナウイルス感染症拡大防止ガイドライン」（九州協会HP掲載済）を参照し、大会前から継続し、大会期間中も、うがい・手洗い・手指消毒等、健康状態に十分配慮する。
- (2) コート以外での施設内では、必ずマスクを着用する。また、施設内だけでなく、ホテルでも消毒や検温ができる準備を各チーム・各自で行う。
- (3) 自己管理・感染症予防のためにホテル滞在中は、各室でも個人的に感染予防に積極的に取り組む。大会前から練習中はもとより、生活全般で体調管理に留意する。
- (4) 沖縄県の行政指針により、大会参加前には、PCR検査または抗原検査を受け、自らの陰性を確認した上で大会に参加（来島）する。
- (5) 滞在中の万一の事態に備えて、「抗原検査キット」を各チームで準備することが望ましい。
- (6) 競技中（試合中）、チーム役員は、必ずマスクを着用する。ベンチで待機する選手は、攻防で常に交代する選手を除き、可能な限りマスクを着用する。
- (7) チーム役員は、感染症対策の責任者として、移動行程や会場での感染症対策の他、チーム関係者から発熱者や体調不良者が出た場合は、責任者の管理下でホテル待機、医療機関、検査機関の受診等の業務に対応する。
- (8) 滞在中にコロナ陽性となった者や発熱した者は、予定（予約）した航空便に搭乗できず、現地での延泊となる可能性があることを想定し、万一の事態に備えておく。

21 危機管理

各チーム・各個人で危機管理意識を高く持ち、各種の緊急事態に備える。

22 観客席

- (1) 今大会は、スポーツ競技活動を通じた教育活動・社会活動の一場面でもある。
各チームの役員は、「競技上の注意」「新型コロナウイルス感染症拡大防止ガイドライン」などを徹底させる。
- (2) 今大会は、「人数制限を設けて有観客」で開催するので、観戦希望者は事前に申し込みを行う。（40名まで観戦可能）事前申し込みを行っていない者の入館入場は認めない。
- (3) 観戦希望者も、選手と同じように、健康観察シートの提出を求める（2日間）
- (4) 観戦希望者の入場時間は、試合開始15分前とし、試合終了後はチームで使用したエリアの椅子・手すり等を消毒する。なお、消毒液・ペーパータオル（雑巾不可）などは各チームで準備し、感染予防対策を施した「新しい大会の運営」に全チームが相互協力する。
- (5) 観戦は指定された場所で行い、飛沫拡散防止のためラッパやホーン、声を出しての応援や指笛などは禁止する。
- (6) 観戦希望する事前申し込みの中に「感染症対策責任者」をチーム責任者が任命し、陽性者が出た場合の対応を行うことができる（感染対策責任者の指名は任意）

- (7) チーム事情により「感染症対策責任者」を帯同できない場合は、チーム役員が業務を兼務する。
- (8) 「感染症対策責任者」は、移動中や宿舎内での感染対策の他、観戦者の中から発熱・体調不良者などが出た場合は、「感染症対策責任者」の管理下でホテル待機や医療機関の受診などの業務に対応する。競技会場内では、チームが使用している観客席（荷物）の管理、使用した観客席や更衣室などの消毒を行う。
- (9) **入館の際には、受付で沖縄県ハンドボール協会が指定する健康チェックに関する各書類を提出する。**

23 申込チームの欠場（辞退）の場合

- (1) 欠場（辞退）による代替出場は行わない。
- (2) 試合記録は、欠場（辞退）のチームの不戦敗とし、スコアは16-0とする。
- (3) 競技日程・試合開始時刻などは、原則として変更しない。
- (4) 大会直前に欠場（辞退）が相次ぎ、競技方法に不公平が生じる場合は、新たな競技方法を検討する。

24 大会期間中に発熱者が出場

- (1) **発熱・咳・咽頭痛などの症状を訴える役員・選手を確認した場合は、速やかに帰宅させるかホテルに待機させ、持参した「抗原検査キットで検査」を行い、医療機関・発熱外来などに相談する。**
- (2) 上記（1）を訴えた役員・選手からの聴取により、対面して食事をしたり、ホテルで同部屋だったりする等の接触があった者についても、その後の諸活動を中断させ、速やかに帰宅させるかホテルに待機させ、医療機関・発熱外来などに相談する。
- (3) 上記（1）（2）により、現地や帰宅後に医療機関を受診した場合、即座にPCR検査の結果が出ないことが想定される。**発熱者に対してチームが持参した抗原検査キットで「陽性反応」が出た場合、チーム内外に濃厚接触者が多く特定される可能性がある場合などは、チームとして、その後の参加（競技）を検討する。その際は、発熱者だけが抗原検査を行うのではなく、関係者全員が抗原検査を行うことが望ましい。**

25 大会期間中の集団飲食について

- (1) 競技会場内での食事は、チーム内であってもソーシャルディスタンスを保ちながら、会話を控え、対面飲食を回避するなど、感染症防止対策に十分配慮する。（黙食の推奨）
- (2) 宿泊時の夕食は、チーム全員での飲食を回避し、少人数・分散で飲食し、絶対に多人数・長時間の飲食にならないように十分配慮する。

26 新競技規則変更の適用について

- (1) 「ボールがゴールキーパーの頭部へ直撃した際の罰則」について適用する。
- (2) 「スローオフエリア」は、使用する。
- (3) パッシブプレーの予告合図後、「パスの最大回数は、4回」とする。
- (4) 上記詳細は、JHAホームページ「2022 新競技規則 変更の概要（2022 年 7 月 1 日 IHF 施行）」ならびに「2022（令和 4）年度 競技規則変更についての質疑に対する回答（第一次）」を参照すること。